



西小林中学校だより

平成24年度 第12号
平成25年1月7日発行
文責：校長 藏留 秀一

新年あけましておめでとうございます 本年もどうぞよろしくお願ひいたします

昨年中は、保護者並びに地域の皆様には大変お世話になりました。

本年も、職員一同『チーム西小林中』として心一つに、

教育指導に邁進してまいります。

どうぞ、本校への変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。



☆☆ 新しい年のスタート、夢の実現は「やってみる」ことから ☆☆

平成25年がスタートしました。

生徒の皆さん、保護者並びに地域の皆様には、さまざまな思いで新しい年を迎えたこと思います。

昨年は、いろいろなことがありました。東京スカイツリーの開業やロンドンオリンピックでの日本選手団のメダルラッシュ、京都大学の山中教授がノーベル賞を受賞するなど、明るい話題が日本中を沸かせました。

本県においても、昨年10月に長崎県で開かれた第10回全国和牛能力共進会で、最高賞・内閣総理大臣賞を種牛の部で獲得したのをはじめ、全9区分中5区分で優等首席に輝くなど、断トツの内容で連続日本一を決めました。産地の総合力でつかんだ「てっぺん」だったとメンバーの方が言われていましたが、口蹄疫のダメージを払拭するという重圧に耐え、史上初の連覇という金字塔を打ち立てられた関係者の皆様のおかげで、私たちも元気をいただきました。

一方では、全国各地で発生したいじめ問題をはじめ、登下校中の児童が車ではねられる事故など、心を痛める悲しくつらい出来事もありました。東日本大震災からまもなく2年が経とうとしていますが、未だに復興が進んでいない状況も見られます。

さて、平成25年はどのような一年になるのでしょうか。

国民みんなが、笑いと楽しさと喜びにあふれる一年であって欲しいと願っています。

生徒の皆さんも、そして、保護者並び地域の皆様も「今年はこれをやってみたい」「こんなことに頑張りたい」「こんな一年にしたい」など、それぞれ夢や希望をもって新しい年を迎えたことでしょう。

その夢や希望を実現させるためには、まず、「やってみること」だと思います。何もアクションを起こさなければ前に進めません。一步でも二歩でも進んでみると、次に何をすればよいのか、他の方法があるのかなど見えてくると思っています。

ぜひ、今年は、たとえわずかでも「やってみる」「一步一步実行する」一年にしませんか。

∞∞ 山林ライオンズクラブ様より、竹ぼうきをいただきました ∞∞

去る12月20日(木)に、小林ライオンズクラブの山口弘哲様、上別府洋哉様が本校に来られ、竹ぼうき20本をいただきました。毎年寄贈されていることですが、今年もいただくことができましたことに感謝しております。

当日は、校長室において、生徒会全校美化委員長の稻富拓人君と副委員長の山崎きららさんが、全校生徒を代表して受け取り、お礼のあいさつを行いました。

本校の校舎周辺は、落ち葉が大変多く、毎朝、部活動生が一生懸命に落ち葉拾いや沿道の掃除をしてくれています。時には、竹ぼうきが足りないこともありますので、今回の寄贈は大変ありがとうございます。学校をきれいにするために、大切に使わせていただきます。ありがとうございました。



◆◆ 山麓ロードレース大会、寒風の中でがんばりました!! ◆◆

第38回新春山麓ロードレース大会が、盛大に行われました。エントリーされた出場選手は140名、本校からは、陸上部、野球部、剣道部の生徒たちが中学生の部に参加しました。寒風が吹く中で、生徒たちはハアハアと白い息を吐き、顔を真っ赤にしながら、一生懸命にがんばりました。お正月の恒例行事でもあり、小林市内外からの多くの人たちの応援に励まれながら、真剣に走る姿に、何事にも一生懸命に取り組む西小林中生徒の強みを感じたところです。なお、陸上部の柴崎真奈美さんが、中学生女子の部で見事に優勝しました。おめでとう。